

釣りの随想：④

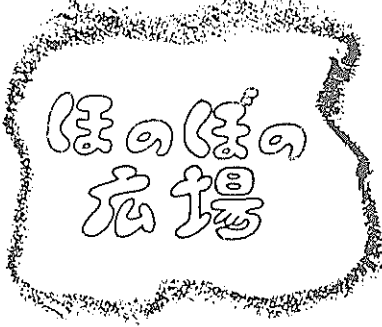
趣味

小物釣り二題(I)

浜田広信(植田)

釣りの趣味は大物でも小物でも変わりがない。それ相当の仕合いをし、小物は先の弱い竿を使い糸も小さい。それに小物は総じてたびたびあたる。そこにおもしろ味があり、また技巧もいる。

若いうちは大物へ大物へと走る。一日に数匹しかあたらぬチヌやズギをわらい、「あれは二ロギ釣りか」と小物釣りを軽侮する。段々釣るうちに年も老い、釣りの趣味も分かり、若いころ小物釣りを軽侮したのが恥ずかしく思うようになる。小物釣りもまたおもしろくなり始める。



「ほのほの広場」に、あなたの身の回りのほのほのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。
▼投稿先・〒783 南国市大浦甲三三〇一 南国市役所 内広報委員会まで。

特に二ロギ釣りは、舟遊びで一家だんらん、友人、知人や子供も連れて釣ることができてにぎやかで楽しい。殊に二ロギ釣りは楽な釣りで、舟を潮に流して釣るもよし、また錨を入れて釣るもよし。元来、柄長の六分の二ロギ針にゴカイを刺してコブキ式で釣ったが、近年は擬似針で糸の末端にあんどんびし、それにアミを入れて釣るので舟もなるべく動かぬようにして釣るのがよいと思う。二ロギは勢いよく泳いで飛び付き食うもので、小さい割にあたりが強い。しやくる必要はなし。目が、重で袋目であるからひとりでに掛かる。

それに少し待っていれば三匹も三匹も同時に釣れる。勢いよく餌に來るので体のひれや尾に針が掛かっておもしろい。時々、目に掛かりさぞ痛がるうと気の毒に思う。

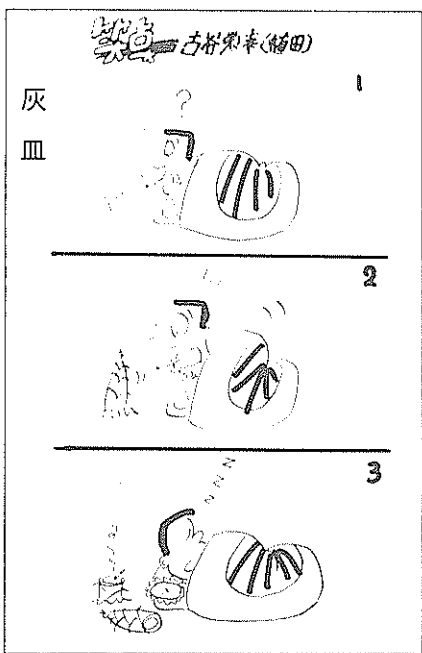
何年か忘れたが、戦争が勝った勝ったというころの秋であった。上佐山田町にいる鮎釣り専門の弟と、その友人が浦戸湾へ二ロギ釣りに行きたいとのこと。その翌日は日曜日であり引き受けた。

私は二ロギよりセイゴが食うことを聞いていたので、その準備をして待っていた。二人は日曜日の朝、車で来た。直ちに棧橋に行き貸舟屋でアミと擬似釣りの仕合いを各自求め、棧橋から舟に乗り東へ行き、岸壁の東側の野村産業社が舟をつないでいる間にセイゴが

付いていることを聞いていたのでそこで始めた。
案の定セイゴが食い付く。竿は先弱もので二、三匹掛かるとおもしろい。太さは五、六寸くらいで、ちやうど小鮎くらい。鮎は長い竿で道糸も長いが、セイゴは短い竿で間を置かず食うのでおもしろい。二人も段々慣れてくるとともに二匹、三匹と釣り、舟の間へ針を落とすと、すぐ食いつく状態。半日も釣ると生け簀に満杯になった。これで家への土産がでたと大喜び。三人で釣った魚は一つのかごに入れた。二人は「さすがに浦戸湾だ。魚が多い」と喜んでいた。

鮎は脂焼きが一等うまい。セイゴもしょうゆにみりんを混ぜて、付け焼きにすれば鮎にも劣らずうまい。

(つづく)



ご家庭で話し合つて答えてください。答えは、この広報に出ています。

●もんだい・自分たちの手で米を作ろうと、〇〇小学校の五、六年生が田植えを体験しました。
■しめきり・5月15日
■あて先・〒783 南国市大浦甲三三〇一 南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所、氏名、年齢、職業を書いてください。
■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。

第170回当選者発表敬称略
(応募総数31通)
■答え・(欠)植田
■当選者五人
小田明子(浜改田)
片山佳代(東崎)
竹内伸一(大浦)
坪田麻美(奈路)
土居千代子(千市)